

(7) 牛田八幡社本殿、覆殿、中殿及び袖廊、拝殿について

所在地：知立市牛田町宮本14

所有者：宗教法人八幡社

名称	形式	建設年代	登録基準
牛田八幡社本殿	木造平屋建、 こけら 柿葺	江戸中期	造形の規範となっているもの
牛田八幡社覆殿	木造平屋建、 瓦葺	安政3(1856)年頃	国土の歴史的景観に寄与しているもの
牛田八幡社中殿及び袖廊	木造平屋建、 瓦葺	明治42(1909)年	国土の歴史的景観に寄与しているもの
牛田八幡社拝殿	木造平屋建、 瓦葺	明治15(1882)年	国土の歴史的景観に寄与しているもの

【概要】

旧東海道の南方に位置する神社で、境内の南北軸線上に北から本殿とこれを安置する覆殿、中殿及び袖廊、拝殿が並ぶ。本殿は一間社¹流造²柿葺³で、軸部や組物に塗装、彩色を残し、整った意匠とする。覆殿は、入母屋造り⁴棧瓦⁵葺で、正面に一間向拝⁶を付し、本格的な本殿形式の構成となる。中殿及び袖廊はT字平面で正面の虹梁⁷廻りや妻飾りに龍や虎、鶴の彫刻を密度高く配する。拝殿は入母屋造り棧瓦葺きで南面の虹梁上や組物間など彫刻で飾った華やかなものである。

一間社¹ 桁行（正面）の柱間が1間（柱が2本）

流造² 屋根が反り、屋根が前に曲線形に長く伸びて向拝となった神社建築の一形式

柿葺³ 屋根葺手法の一つで、木の薄板を幾重にも重ねて施工する工法

入母屋造り⁴ 建物の屋根の上部が切妻造り、下部が寄棟造りになっている形状のもの

棧瓦⁵ 横断面が波状をした瓦。江戸中期に作られ、以後、一般住居に用いられたふつうの瓦

向拝⁶ 寺院建築・神社建築において、仏堂や社殿の屋根の中央が前方に張り出した部分のこと

虹梁⁷ 虹のように上方にやや反りを持たせてある梁



牛田八幡社本殿（知立市提供）



牛田八幡社覆殿（知立市提供）



牛田八幡社中殿及び袖廊（知立市提供）



牛田八幡社拝殿（知立市提供）